

コロナ禍以降の台湾インバウンド・自治体交流事情

台南市政府新聞及国際関係処（群馬県みなかみ町台湾事務局） 阿部真行

1. 信じてもらえなかった「九州上空一周ツアー」の存在

「九州一周ツアーではなく九州上空一周ツアーです。」と昨年、zoom セミナーで紹介した時には「どういう意味ですか?」「何ですかそれ?」といった反響を多くいただきました。

ご存知のとおり台湾はつい最近までコロナ感染封じ込めに成功しており、ほぼ通常の生活ができていました。昨年は3月にちょっと自粛期間があっただけです。しかしそのちょっとの間でも外食文化、夜市文化で育った台湾の人達は外に出たくてたまらない様子で、自粛期間が明けた後は皆こぞって旅行に出かけるといった感じでした。花見ツアーで日本へ行くはずだった人たちが阿里山に登って山桜を見たり、自粛でストレスがたまっていた人達が食べ歩きツアーに出かけたりしていて、私の予想に反して観光業の動きが激しかった

記憶があります。当初はバスツアーが中心でしたが、飛行機での国内移動が可能になると澎湖島など離島への旅行が大人気で、通常の受け入れ可能人数を越える人達が押し寄せる事態も起こったくらいです。

このように国内旅行は盛んでしたが、やはりインバウンド関連業者は大変でした。そこでまず事業者が考えたのが空港での「疑似出国体験ツアー」です。これは空港に行き、チェックインカウンターでスーツケースを預けるなど手続きをして「出国した気分を味わえる」という内容でした。スーツケースを預けてすぐに受け取って終わり、という内容だったのでさすがに私も利用する人がいるのか半信半疑でしたが意外と好評のようでした。

そしてついに出たのが冒頭で紹介した「九州上空一周ツアー」です。

2020年8月6日に虎航（タイガーエア）が販売したこのツアーは実際に乗客を乗せ、日本九州



島の食べ物が観光客に食い尽くされるという写真

（出典：「報復性旅遊太可怕了！澎湖人傻眼：晚上郊外大塞車、市場海鮮被搶光」、中視新聞網、2020年7月19日。
<https://www.chinatimes.com/realtimenews/20200719001006-260405?chdtv> 2021年5月31日閲覧）



旅客限定的伴手禮也是拿好拿滿，包含了最實用的「愛媛未來旅遊包」，石鎚純米大吟釀，這是一款以四國最高峰「石鎚山」湧出泉水釀造的風味美酒，還有日本高檔毛巾品牌「橘子

飛行路線
台北松山機場 → 日本愛媛縣上空（自神戶高松讀賣客門欣賞當地風景） → 台北松山機場（航機係長領航空服安排妥善）

聯取機程
經濟艙800哩+1起飛段

伴手禮拿好拿滿

專屬機上服務

愛媛県上空ツアー 3999 元～、機内食・愛媛の地酒・みきゃんグッズ
 （出典：長榮航空 <https://www.promotions.com.tw/eva-ehime/> 2021 年 5 月 31 日閲覧）

の上空をぐるっと周り、窓越しから日本を眺めてそのまま上陸せずに台湾へ戻るというツアーです。ツアー料金 8,888 台湾ドルでしたが、あっという間に完売し、ニュースでも大きく報道されました。この事実を日本向け zoom セミナーで紹介したところ、「信じられない」といった反応だったのですが、それだけ台湾人の「日本に行きたい欲求」が強いことを知ってもらえるよい事例でした。（九州上空一周ツアー報道動画 台視新聞 2020 年 8 月 6 日 <https://www.youtube.com/watch?v=i0mkNDL1pFA> 2021 年 6 月 18 日閲覧）

この「日本上空一周ツアー」はその後タイガーエア以外にも他航空会社も販売しており今年に入ってからエバー航空の「愛媛県上空ツアー」、チャイナエアラインによる「富士山上空一周ツアー」が販売されました。

2. 「行けないなら、せめてモノが欲しい」

私は群馬県みなかみ町から観光を主とした交流事業を推進するために台南市政府へ派遣されてい

ます。台湾ではほとんど知名度の無い町ですが、台南市政府をはじめとした現地皆さんのおかげでコロナ前には 1 万人を越える台湾人が旅行に行ってくれていました。町の人口を考えると本当に有難い数です。

しかし観光が主産業の町から派遣されているのに、それが進められないとなると私の存在意義自体が心配です。市政府の同僚からも「阿部さん、成績出せなくて町から怒られないか？」と心配された程です。

そこで考えたのが「人は動けないけどモノと情報は動かせる」という交流です。日本の物産を輸入して、台南市内デパートで物産観光 PR を実施するという企画でした。台湾で人気の「日本製」で何とか観光 PR に繋げようという苦肉の策でした。物産展で人気なのは食品ですが、群馬県の食品はまだ台湾に輸入出来ません。そこで私の嗜好もあり「酒」を思い付きました。全くルートが無かったのでまず群馬県庁に連絡し何軒か県内酒造会社を紹介してもらいました。対面もしたことが

ない状況での交渉は難航しましたが、幸いにも牧野酒造さんという老舗会社に協力していただける事になりました。

台南現地ではもともと「帰国できない可哀そうな日本人」として回りから心配されていたので、デパートや輸入業者との交渉も皆が協力的であったという間に進めることが出来ました。これも私が「日本製」のおかげと感謝しています！

企画から約1ヶ月後の2020年8月21日～8月23日の3日間「群馬の地酒展」を実施。台北では頻繁に実施されている日本物産展ですが台南では少なく、また現地の人達の「日本に行けないストレス⇒せめて日本のモノが欲しい」という購買欲求高まりタイミングも相まって仕入れた720本は完売、更に予約を数百本いただきこのデパートでの売り上げ記録をつくる事が出来ました。



中華日報の新聞写真
(『中華日報』、2020年8月22日)



テレビ紹介の写真
(中嘉新聞、2020年8月22日)

「酒」に限らず、やはり台湾では日本製が人気です。

「群馬の地酒」露出のおかげで観光PRにも繋がり、また純粋に日本酒が好きで購入してくれた方からも「他の種類はないのか?」「この酒蔵に行ってみたい」と今後に繋がる期待が持てそうな反響をいただくことが出来ました。

この「群馬の地酒展」は私が個人的に何かやらなきゃという焦りが動機で実施したというのが正直なところですが、その後の台湾南部の旅行展にも影響を与える結果になりました。

3. 観光旅行展が観光物産旅行展、そして物産「酒」展に！

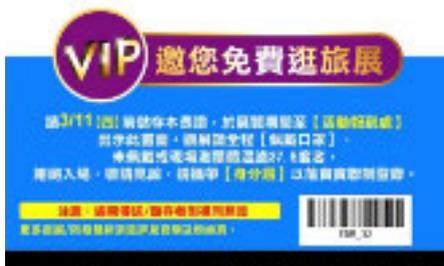
台北旅行博、台中旅行博、高雄旅行展など台湾では大規模な旅行展が年間通じて、数多く実施されています。そこには毎回、数多く日本自治体・企業からの出展がありますが昨年からは事情が変わっています。コロナのために日本からの出展ブースが激減しており、来場者誘客の目玉が減っているのです。私のように今までも出展する側だった人間にはあまり影響がありませんが、旅行展主催会社は大変です。その主催会社から「11月の台南や高雄旅行展に酒を出して欲しい」と依頼が来たのです。旅行商品の販売が出来ない今、旅行展だけでは誘客が難しく「日本人」と「日本の物産」が必要とされたという訳です。台北には多くの日本人、日本企業が存在し日本物産展も多く開催されるのですが、実は南部はそうでもありません。地酒展の盛況ぶりに注目した旅行展主催者が、旅行商品が売れないなら物産中心にして人を集めよう、と方向転換したのです。今回は私と同じように北部で「物産」「酒」を展開していた茨城県笠間市事務所も初めて参加してくれ何とか実施、その旅行展で知り合ったホテル事業者と「日本酒を使ったフレンチコースのディナー開発」にも繋がりました。また旅行業だけでは食べていけず困っていた旅行会社からも「うちの会社でも群

馬の地酒を扱わせて欲しい。もし他の日本物産を輸入販売できるなら是非やりたい。」と声を掛けてもらったりと、「酒」のおかげで他業種との多元交流のきっかけが創出できました。

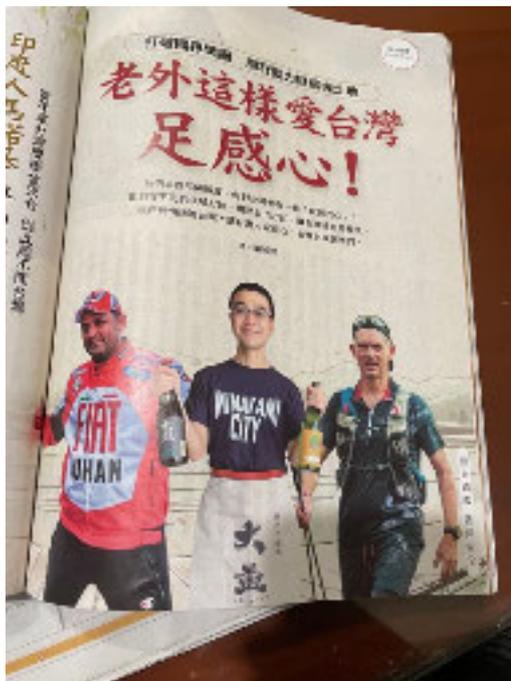
またこの時、同じく台南旅行展に参加していた静岡県台北事務所長から「今この時期に台湾にいる自治体職員として出来ること」について話をい



Find your oasis.



日本観光物産展 ⇒ 「酒」展
(当初は観光物産展だったが、いつの間にか観光物産「酒」展に名称が変わっていた。)



台湾経済ビジネス誌「財訊」特集
(変わった交流方法で物産交流を展開している日本人として経済誌で紹介してもらった。)



市場&林デパートの写真
(この頃、台湾のいたるところでフリーマーケットのような市場が盛ん。「日本のモノ」は人気で、しょっちゅう呼ばれて参加していました。)

ただき、12月の「日台交流自転車台湾一周」に参加させていただくことも出来ました！

4. 他自治体・団体との連携

上記のように直接のインバウンド推進が出来ない今、何とか物産交流を中心に観光事業者と関係

を保ってコロナ収束後に備えています。ここで観光以外の交流をいくつか紹介したいと思います。

① 台湾在住日本自治体職員との「日台友情自転車、台湾一周交流」

東日本大震災10周年のイベント事業として静岡県台北事務所、沖縄県台北事務所、そして日本台湾交流協会に派遣されている各自治体職員の方達と自転車で台湾一周しながらの自治体交流をさせていただきました。大がかりなイベントなので参考になるか分かりませんが、今後各自治体や観光協会でもアレンジして実施できる可能性はあると思います。詳細はnippon.comに寄稿させていただきましたので興味ある方は是非ご覧ください。

「日本人公務員がチャレンジした台湾自転車一周「環島」—震災支援の感謝を込めて」

<https://www.nippon.com/ja/japan-topics/c08803/> (2021年6月18日閲覧)

毎日、多くのメディアが報道してくれたおかげで存在意義を伝えることが出来ました。

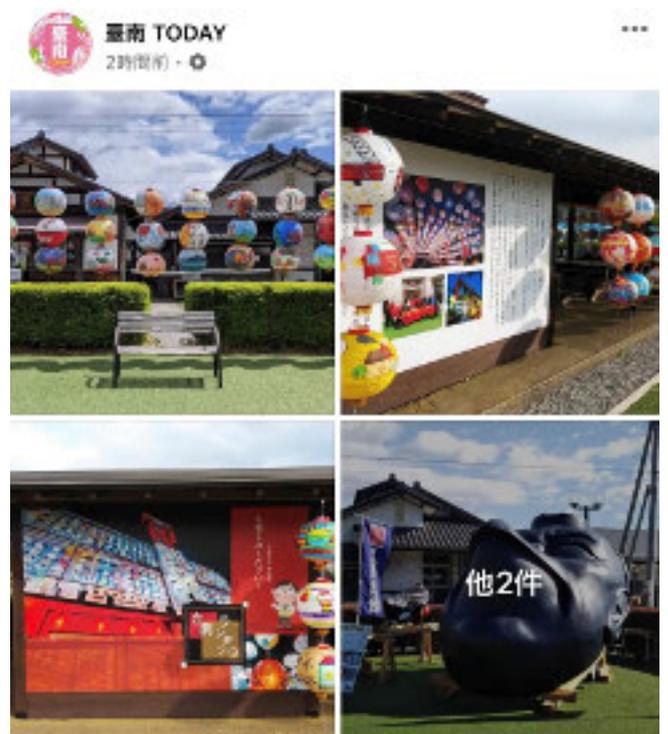
② ミニ相互展示交流

これは台南市政府国際科としての事業です。人の往来が出来ないかわりに日本の友好都市からその土地の関連書籍や観光パンフレットを送ってもらい台南市政府内や市内図書館で展示。台南市からも日本へ書籍やパンフを送り、各市役所や役場で約1ヶ月間展示する「モノと情報を動かす」交流です。段ボール一箱の送料だけで済むし、公共の場所に展示することによって多くの地域住民の人に触れてもらうことが可能です。恵那市、笠間市、仙台市、滋賀県等々多くの自治体と実施してきましたが概ね好評です。京都市や台南市も参加している世界歴史都市連盟からは「非常にコストパフォーマンスの高い国際交流」と評価していただきました。

③ ランタン交流

今年3月、台南市から550個のランタンをみなかみ町に送りました。このランタンは道教の火の神「火徳星君」のご加護を願うというテーマに沿って描かれ、元宵節の時期に台南市に現存する日本時代の消防署に飾られていました。みなかみ町には烏天狗という火伏の神様がいますので、防火・防災そして厄除けの意味を込めたランタンを送り「神様同士に交流」してもらおう企画です。台南市消防局第七分隊の署員たちは「日本に行けるようになったら、必ず烏天狗神輿を担ぎに行く」と張り切っているし、展示した日本側でも予想以上の好評で展示期間を6月末まで延長してくれました。周辺自治体からも「うちにも展示したいからランタンを貸してもらえないか？」と問合せも来ており火の神様による交流は拡大中です。

台湾は信仰心が強く、至る所に廟があり神様が存在します。またお年寄りだけでなく若い人も何



ランタン報道
(「臺南 TODAY」Facebook、2021年5月7日)

かあれば廟に出向き神様に相談するという、非常に神様との距離感が近い生活をしています。日本も各地にそれぞれのお寺や土地の神様がいて、「神様交流」の展開も期待大です。今台湾は水不足なので、日本から「水の神様」が来てくれれば大歓迎されるはずですよ。

④ パイナップル交流

今年3月の中国による台湾パイナップル輸入禁止報道がきっかけで始まった交流です。多くの日本自治体・企業の皆さんから問い合わせをいただき現在も進行中です。報道のあった3月頃に日本市場に出ていたパイナップルは屏東産が多かったのですが今では台南産のパイナップルも出荷しています。みなかみ町も友好都市として台南産パイナップルをコンテナで輸入する準備をしています(6月9日出荷予定)。

⑤ マンゴー交流

私が台南市に来たきっかけは「2013年第1回台南芒果季(台南市国際マンゴーフェスティバル)」でした。台南市玉井地区は「マンゴーの故郷」と呼ばれる一大生産地です。台湾には20数種類のマンゴーがありますが、なかでも甘みと酸味が人気のアップルマンゴーは「夏のルビー・夏の宝石」とも呼ばれています。これらのマンゴーを世界中に広めるために開催されるのが「台南市国際マンゴーフェスティバル」で毎年6月末に開催、日本をはじめ多くの国から商談目的のバイヤーや観光客が訪れます。

私も2013年のマンゴーフェスティバルに参加し、台南からマンゴーを日本に輸入、そのルートを使ってみなかみ町からリンゴや他農産物を台湾に輸出できないかという調査で台南にやってきました。

当時は私自身まったく素人だったためマンゴーオーナー制度を作ろうとして失敗したり地元生産



台南マンゴーフェスティバル in 群馬県

農家の方達とトラブルになったり色々ありましたが台南市政府や玉井地区農会の協力を得て2014年から輸入を開始、今年で8年目になります。もちろん台南現地だけでなく、みなかみ町の協力も大きく役場職員内で購入促進してくれたり、温泉旅館やホテル、観光農園、道の駅と多くの観光事業者さんが支持してくれているおかげで継続できています。正直、単純に価格だけで比較するとタイ産やフィリピン産の方が安く購入できるのですが「台南市との交流」を重視してくれている日本側皆さんの気持ちは本当に有難く、同時に交流の重要性も実感しています。ちなみに今年3月のパイナップル報道直後には何軒もの温泉旅館、ホテルの人達が「今後はウチで使うパイナップルは台湾産にするから」と応援してくれました!

2014年当初はみなかみ町商工会が輸入窓口として仕入れ、商工会職員や役場職員等になかば強引に購入してもらっていましたが、年を重ねるごとに「台南マンゴー」の美味しさが認識されてきて輸入量も増えてきました。交流拡大のために商工会だけでなく役場、観光協会と共同で物産交流委員会を組織し、またみなかみ町以外の群馬県内市町村、そして町と都市交流をしている東京都中野区、茨城県取手市、埼玉県等々とも地域連携し町がハブ役になり台南マンゴーを輸入していま

す。2014年は100kgちょっとから始め、町民に浸透するにつれ輸入量も増えやがてトンを超えるようになりました。そして昨年2020年はコロナのおかげで往来が出来ずに様々な交流が中止か縮小。マンゴー交流もどうなるか心配していましたが、前述した日本酒と同じように「行けないなら、せめて現地のモノが欲しい」＝「台湾に行けないから、マンゴーを食べて台南気分を味わおう」という人が多く出たおかげで過去最高の輸入量、2トンを超えました。

2021年の今年は更に他自治体との連携をしやすくするために、「台南マンゴーフェスティバル in ○○町」のような企画が実施できないか思案中です。現在、台湾もコロナの影響で6月のイベント実施不可状況です。台南マンゴーフェスティバルも実施できないので、それを逆手にとり台南マンゴーフェスティバルという名前のイベントを日本各自治体と協力実施して「台南マンゴー」の存在をPRしたいのです。

あくまでも個人の感覚ですが群馬県やみなかみ町では「マンゴーと聞くと台南を連想する」という人が増えています。モノを通じて地域情報を伝え、観光・交流に繋がるという仕組みが出来つつあるように感じ嬉しく思います。人の往来が出来ない今こそ、モノに動いてもらう交流を実施するチャンスでもあるので「台南マンゴー祭り in ○○県」「台南マンゴー祭り in ○○市」のように他県他市町村とも協力して展開できないか試してみたいと思っています。

5. 小さな自治体だから出来る交流も！

今までモノや情報を通じた交流を紹介してきましたが、やはりおススメは人的交流です。こう言ってしまうのは身もふたもないかもしれませんが、様々な交流を実現できてきたのは人的交流が基礎というのは間違いありません。私は現在、台南市政府新聞及国際関係処という部署に在籍しながら

群馬県みなかみ町の仕事をしています。台湾に拠点を持っている他自治体とちょっと違う点は「台南市政府内にデスクがある」という事です。他日本自治体が台湾に拠点を置く場合、ほとんどが台北で事務所を設立しますが、これだと単純に家賃や備品、現地スタッフ人件費等々で相当な経費がかかります。予算が確保できる自治体はいいですが、なかなかハードルが高いと思われます。それが台南市とみなかみ町の方式だと事務所設立費不要で拠点が出来てしまうのです。また同僚が台南市政府職員なので自然に情報交換が密に出来るし、人間関係も構築しやすいです。

「日本人」という強みで私の所属している国際科以外の部署からも日本関連業務の話をもらうことも多く、交流拡大の機会が勝手に舞い込んでくると言っても過言ではない位の環境です。この方式を受け入れてくれた台南市には本当に感謝しています。※予算面では事務所設立費の他に滞在費を減らすために台南にある成功大学の学生寮にしばらく住んでいました。1人部屋を予約していたのですが、到着したら部屋が空いていないと言われ、地元学生と2週間くらい同居生活でした。おらかな台南らしい貴重な経験です。

実は台南市と交流している日本自治体の中でもみなかみ町は特に規模が小さいので、現地に駐在している身としては時々申し訳ない気持ちにもなります。やはり台南市にとっては京都市、仙台市、金沢市といった日本でも台湾でも名が知られている大都市と付き合った方がいいんだろうなあと考えることもありますし、「みなかみ町？聞いたことない。」と台南市政府の人にも言われることが少なくありません。

しかしマンゴー交流やインバウンドだけでなく、アウトバウンド（台湾からみてのインバウンド）もみなかみ町は実績をあげています。台南市から来てもらうだけでなく、みなかみ町からも台南に行こうということで町長を団長とした町民



台南市政府国際科（群馬県みなかみ町台湾事務局）の昼食風景写真
（日本人1名（阿部）以外は全て台南市政府職員）

旅行、また町内にある高校の修学旅行は台湾で交流高校は台南市長栄高校と実施しています。ここ数年は町内中学生の「海外派遣交流事業」で毎年12月に台南市崇明中学校との学生交流も実施していますが、これらは小さな自治体で柔軟性があつたから実現できたと思っています。人口1万数千人の町でこれだけ地元の人を台南市に送り込んで交流している自治体は他にありません。知名度は無いけど実績を上げる環境をもらえたために、今では名だたる自治体と比較されても堂々としていられるようになりました。

みなかみ町と台南市との交流方式を知つた台湾の他地方政府からも連絡をもらったことがあります。高雄市は台南と近いので早くからこの点に注目して、群馬県は実際に短期間ですが「高雄市×群馬県」の人事交流を実施しました。また前述した昨年12月に実施した自転車での台湾一周交流事業の時も桃園市政府、苗栗县政府、屏東县政府の観光局や国際担当部署から「お前があつた阿部か！ウチとも人事交流をしないか？」と声を掛け

られました。それだけ多くの地方政府が興味を持って知つてくれていることに驚きました。日本の多くの自治体が台湾と交流をする際に真っ先に思いつくのは台北だと思つています。しかし台北以外の地方政府でも日本と交流を願つているところはたくさんありますし、やはり現地に人が入り込んだ方が手っ取り早く進められます。

台南市政府国際科もこの交流方式メリットを認めており独自に他日本自治体による台北事務所や上海事務所との経費比較表を作成してくれた事もあります。

また派遣と聞くと長期間のイメージがありますが、群馬県と高雄市の交流は1ヶ月間でした。1年目に来た職員は秘書課に1週間、観光局に1週間という具合に4部署×1週間＝1ヶ月、2年目に来た職員は観光局×4週間＝1ヶ月です。自分で拠点をつくる必要がなく「間借り」するので設立準備不要で滞在期間の調整も自由自在です。逆に台湾側の職員を日本の自治体で受け入れることも可能で、群馬県やみなかみ町でも実施していま

した。

私の場合はちょっと特殊で思いもかけず長期間駐在になっているので、時々他自治体の市長さんや議員さんが台南市訪問した際に「あれ、まだいたの？」などと言われることもあります。また台南市政府国際科を訪問してくれる日本自治体の人達に向かって科長が「阿部の隣が空いているから、次はあなたが来ませんか？」と笑いながら話す事もあります。科長がどこまで冗談で言っているかわかりませんが、この方式は予算が少なく、人員を割く余裕のない小さな自治体でも比較的实现可能な方式だと思うので是非多くの人に知ってもらいたいと思っています。

現地駐在として

現地では「台湾の行政機関にいる唯一の日本人」という存在です。台南市政府から対日事務相談顧問、そして観光業界では台南市旅行商業同業公会顧問という役職もいただき本当に有難い限りですが、ここ数年はずっと自分が帰国したらこの人脈、環境を引き継ぐ人がいないという事も心配です。

沖縄県台北事務所、静岡県台北事務所などは県として事務所を運営しているので任期で人が替わっても事務所は存続し事業も継続できますが私

の場合はちょっと事情が違います。阿部が凄い、阿部だから出来るなどと言ってもらえることも多いですが、このちょっと特殊な交流を継続させるために地元みなかみ町役場の人達には大変苦労してもらっているし台南市政府からも寛大な理解と金銭には変えられない支持をいただいています。ここまで双方が努力し積み上げ、また実践を通じながらカタチになってきた交流方式を途切れさせるのはあまりに勿体ない、群馬県みなかみ町に限らず日本のどこかの自治体の人に継いでもらいたいと期待して台南市政府と共同で交流記録書籍を出版したこともあります。（『～日本公務員の駐在日記～台湾・台南そして安平！』上毛新聞社、2019年）。

現在2021年5月、コロナ封じ込めに成功していた台湾があつという間に緊急事態宣言に陥ってしまい国内旅行どころか外食も出来ない状況です。警戒レベル第3級は6月14日に解除される予定ですが、正直先の見通しが立ちません。こんな状況ですが、まずはパイナップルとマンゴーなどモノに動いてもらいながら交流を継続させ、ヒトの往来が再開する日まで粘ろうと思います。

(2021年5月寄稿)

日本台湾交流協会でも地方自治体職員が活躍中！



当協会も地方自治体職員の出向を受け入れています。2021年6月現在、台北事務所に愛媛県・福岡県・岐阜県恵那市から3名、高雄事務所に三重県から1名の職員が出向中です。担当業務は日台ビジネス交流、青少年交流や奨学金留学生事業等、様々な分野の日台交流に広く関わることになります。

当協会の人事交流にご関心のある地方自治体の方は、下記連絡先までご連絡ください。

<人事交流に関するお問い合わせ先>

公益財団法人 日本台湾交流協会 総務部人事担当
03-5573-2600